

分科会「戦時のろう者」報告

助言者：水野ミサ／司会：青山直幹

長岡大空襲

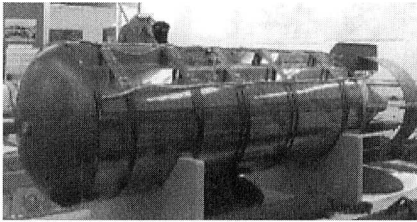
昭和20年8月1日 午後10時30分 (水野さん19歳の時)

そのときの人口… 74,508人

死者…………… 1,473～1,476人

爆撃機…………… 125機

焼夷弾…………… 1個に38本の焼夷弾子弾



(死者)

東京…………… 88,000人

名古屋…………… 826人

大阪…………… 3,987人

長崎原爆… 73,884人

広島原爆… 14万人

沖縄…………… 10万人 (地上戦含む)

■「油」が入った焼夷弾が投下

日本は木造家屋が多いので、これを焼き払う目的でアメリカ軍「B29」は油脂を主成分とする爆弾を豪雨の如く降り注いだ。すきまなく徹底的に攻撃するじゅうだん爆撃によって、長岡のまちは瞬く間に炎に包まれていた。

※長岡戦災資料館や戦争に関する資料などは、「8月1日空襲開始」と公表しているが、水野さんは8月1日ではなく「7月31日」だと主張している。

▶まず、司会が長岡空襲に関する知識（上記）を説明した後、質疑応答の形式で進めた。以下に、水野さんの証言をまとめた。

●戦前の食糧は、米わずか、豆中心の主食

学校の食事は、お米が少なかった。

朝・・・少ないお米に多くの豆を混ぜて、更に小切りに切ったサツマイモを入れて蒸して食べるのが常だった。おかず無し。

昼・・・朝と同じ豆中心のごはんに、漬物かわずかなおかずといった程度。

これでは満腹にはならない。

あまりにも空腹がひどいので、こっそり外の畑作物を盗んで食べる人がいた。

畑の異常さに気づいた先生が、生徒を集めて「誰が盗ったか？」と聞いても誰一人素直に前に出る人がいなかった。先生は男性ばかりを疑い、執拗に問い詰めた。

のちに女子の〇〇子が「自分がやった」と私に自白した。空腹に耐えられないのを理由に盗んだのはやむをえない。かわいそうなので、〇〇子を責めることはできなかつたし、先生に報告することもできなかつた。容疑者は女生徒なのに、先生は男の方ばかりしつこく懐疑心を抱いた。こういう先生の態度が全然気に入らなかつた。

戦争が生んだ事情なのだ。

(参考) 富山の場合

「イナゴ」を混ぜたごはんが主食だったが、あまりにもひどかったので不満が噴出したそうだ。のどに通らないほどまづかつたらしい。

●自宅から食べ物を持ち出す

みんな空腹の毎日を過ごしている。こういう状況を見るに見かねた私は、休日に実家から干し魚やアメなどを持ち出し、みんなに裾分けした。干し魚を焼いていると、焦げ臭いにおいをかいた先生が部屋に現れることがある。畑から盗んだものでないと分かったら、何も言わず黙認した。実家は、干し魚などの商売自営店なので何でも揃っていた。こういうように、戦時下は食糧不足にあえいでいた。

●男性には不評のサツマイモ、ホクホクの女性

夏休みになると、小学6年以下は帰省。中学1年以上は、学校に残り、毎日畑作業に追われた。運動場に畑を耕し、女生徒が種をまいたり苗を植えたりするのが務めだった。そこで育ったサツマイモを蒸して食べるのを喜んだのが女性で、のどがむせぶからといって男性には不人気だった。

●300人もいた長岡ろう学校の生徒

そのうち通学生は20人位で、他は学校で教室を兼用して共同生活した。

特注の大きな釜でごはんを炊き、みそ汁も特大サイズのナベで作った。

最高15人の部屋もあったが、ほとんど8人部屋が多かった。

●高学年はほとんど授業なし、畑作業ばかり

高学年は、ほとんど畑作業に一日を費やした。

作物育成、耕作、草むし、種まきをやらされ、勉強はあまり手をつけなかった。勉強嫌いな生徒は喜び、学習願望のある生徒はこういう日々を悲しんだ。

●手まねしたら男生徒は体罰、女生徒は口頭注意

手まねは絶対に禁止された。

授業はもちろん口話と板書中心で進められた。

手まねを使ったら男生徒はえりをわしづかみされホッペタを叩かれたり、手をビシビシ叩かれたりした。

とにかく、男生徒に対しては体罰。女生徒に対しては口頭注意。

この温度の差に違和感を覚え、男は気の毒に思った。

二度とやったら、廊下に水の入ったバケツを長時間持つ罰が待ち構えていた。

そうするまいと、みんな手を使わないように気をつけた雰囲気は行き詰るようなものだった。

●「ニッポン、戦勝！アメリカに勝った！」と言い放す先生

ろう学校で先生がよく「日本、戦争、アメリカに勝った！アメリカに勝った！」

と手をたたきながらバンザイを繰り返して生徒に戦意を施した。

われらは見様見真似するしかなかった。いまに思えば、全く無意味な教えだった。当時の私は16歳。

●必死に逃げまくり一人ぼっちに・・・

空襲警報が鳴り、家族と一緒に必死に逃げまくる中、家族からはぐれてしまい、一人になった。無我夢中で逃げて隠れた場所が神社の境内だった。そこはなだれ

込むように人がいっぱいあふれていた。その憲兵の指導のもとで身を隠した。

夜空を見上げると、たくさんのB29が飛行機雲を

描きながら飛んできた。すると、B29から投下してく

る焼夷弾から一気に子弹がホタルみたいな明かりをとも

しながら蛇行状態で飛び散ってきた。夜空にチカチカ光

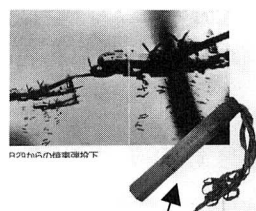
る明かりはあまりにも美しいため見とれてしまうが、こ

の美しい一瞬は束の間。

子弹が地面に落ちると、たちまち火の海に一変した。

のべつ幕無しに焼夷弾が降りかかってくる凄まじさに

身震いし、精神的に尋常でなくなり、冷静さも失ってしまった。



焼夷弾子弹

●逃げ場がなく、死を覚悟した

B 2 9 の攻撃から逃げようと安全な逃げ場を捜し求めるが、どこに行っても人だかりだった。死を覚悟した。

家が燃えぼう然と立ち尽くす者あり、耳をつんざくばかりのごう音におびえる者あり、耳を押さえてしゃがむ人を無理やり引っ張るがお互いゆずらない場面を目撃する。こういう有様の中で、私は自分を守ることだけしか考えず、周囲のことはどうでも良かった。

「逃げるなら右に曲がりなさい」の父の言いつけを思い出し、それに従うつもりが、興奮のあまり判断を誤って反対側の方向に向かってしまった。道は高熱でまともに歩くことすらできない状態なので、草むらを踏みながら必死に逃げた。

●一睡もできず朝を迎える

時間ははっきり分からないが、闇に響き渡るごう音が消えて鎮まったのは、確か夜明けの4時から5時頃ではないかと記憶している。

アメリカ軍に「紙と木でつくられた家」と呼ばれた木造家屋はひとたまりもなく、まちは焦土にかわった。死者が大勢群がるなかで、何とか私は生き抜けた。

●負傷の跡まだ残っている

気が付くと、おなかを火傷していた。時が過ぎると水ぶくれができて、痛みはひどくなった。包帯を巻いて激痛をこらえた。今も跡が残っているが、さほど目立つような大きさは消えつつあり、周囲が気付かないほどまでに小さくなった。

●長岡ろう学校の再興

長岡ろう学校も焼夷弾により被害を受けた。

私自身、戦後は学校に戻ることはなかったもので、その後は知らない。聞くところによると、近くの女子高校の一部を借りて授業を進めたようだ。ろう学校の再出発は昭和24年ではないかと思う。

●【長岡の死者（1473~1476人）の中でろうあ者は一人だろうか？】

ちょうど夏休みだったので、まとまった被害が出なかったのが幸いだった。

私の知っている範囲では、ろうあ者の死者は年上の一人。時計屋さんの息子ではないか。いつの間にか消えたからおそらく爆死したと思う。

●広島や長崎原爆を知ったのは、ずっと先

当時は新聞も取っていなかったし、ラジオの放送も聴けないから、「原爆」の存

在すら知らなかった。

健聴者が身振りで「向こうで飛行機から大きな爆弾が落とされて、大きな爆発があつてたくさんの人が死んだ」と教えてくれたが、どのくらいの爆弾か想像もできなかつたし、何だかわからなかつた。

世間が落ち着いたとき、新聞で「原爆」を初めて知つた。

■長岡が大空襲を受けた理由

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 新潟県下で人口が2番目に多い2. 交通の要衝（ようしょう）・・・軍事上重要な場所3. 兵器を作る工場がたくさんあつた4. 石油を産出するところ5. 山本五十六の出身地 |
|--|

■長岡より人口の多い新潟市がなぜ空襲されなかつたか

新潟は原爆投下予定になっていたため、焼夷弾攻撃は行なわれなかつた。

原爆投下候補・・・京都、広島、新潟、小倉の4都市

実際に投下されたのは、広島と予定外の長崎の2都市

▲参加者の声

1. 戦争は反対。
2. 戦争は、女性や子ども、年寄りなどの多くの一般国民が機銃掃射の犠牲になるだけで、全く無意味な行為。
3. 憲法9条の改正反対。
4. イラク自衛隊は、早く撤退すべき。
5. 世界平和であつてほしい。
6. 宗教問題も絡み、難しい問題もあるので簡単には解決できない面もある。

▲水野さんのお話

あれほど恐ろしい体験はもうごめんだ。

息の根を断ち切るかのような空襲はまさに執拗なものだった。

爆弾が炸裂するたびに大きく体に響く大音響と振動で、生きた心地がしなかつた。

多くの市民が犠牲になり、もうこんな惨事は、二度と起こってほしくない。

戦争で得したことは何一つもない。

（記録：青山直幹）